

令和6年度 第7回

希望郷いわてモニターアンケート

再犯防止推進に関する意識調査
報告書

令和6年11月

岩手県保健福祉部地域福祉課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名

再犯防止推進に関する意識調査

2 調査の目的

国において、平成 28 年 12 月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行され、国と地方公共団体が適切な役割分担のもと、再犯の防止に関する施策を進めることとされました。

本県は、新たな法律を踏まえ、関係機関・団体等との連携のもと、地域の実情に応じた再犯防止施策の検討を行い、令和3年3月に、岩手県再犯防止推進計画を策定しました。

本調査は、今後の県が進める再犯防止推進に関する施策の参考にするとともに、施策の対象が福祉等の特定分野ではなく地域社会の様々な範囲にわたることから、再犯防止推進を重点的に知っていただく必要がある分野を探るため、調査を新たに実施したものです。

3 調査期間

令和6年 10月1日(火)から 10月15日(火)

4 調査方法

調査票を郵送し、郵送及びインターネットにより回答

5 調査対象

令和 6・7 年度希望郷いわてモニター 200 名

6 回答者数

161 名

7 回答率

80.5%

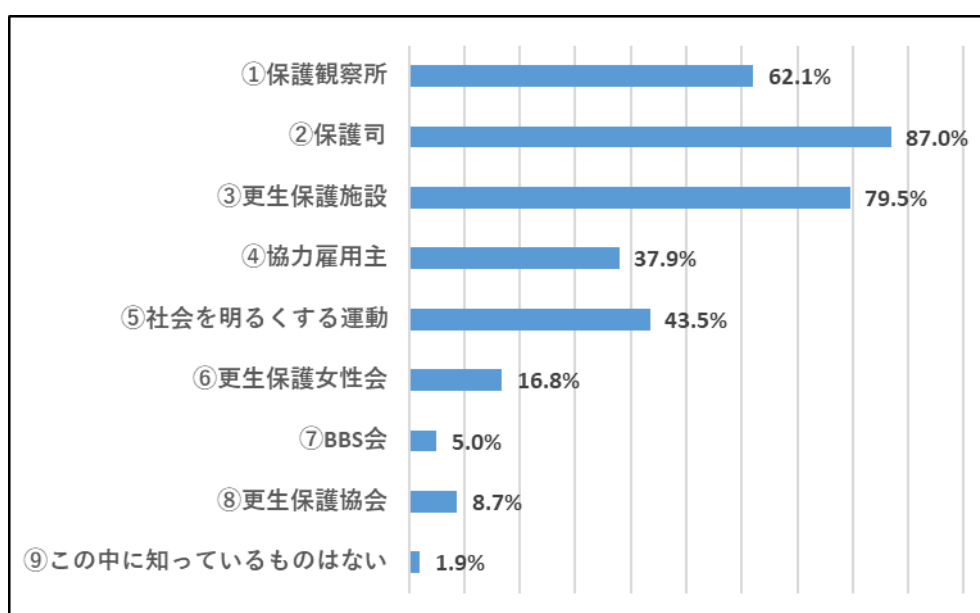
回答者の性別・年代別の内訳

性別・年齢		モニター数	回答者数	回答率
男	20～39 歳まで	15 名	9 名	60.0%
	40～59 歳まで	27 名	21 名	77.7%
	60 歳以上	47 名	43 名	91.4%
	小 計	89 名	73 名	82.0%
女	20～39 歳まで	21 名	14 名	66.6%
	40～59 歳まで	37 名	29 名	78.3%
	60 歳以上	53 名	44 名	83.0%
	小 計	111 名	87 名	78.4%
その他		0 名	1 名	—
合 計		200 名	161 名	80.5%

II アンケート調査の結果

問1 罪を犯した人が再び罪を犯すことなく円滑に社会復帰できるよう、国や県、市町村、民間団体、企業が支援を行っています。次の再犯防止に関する言葉について、知っているものがありますか。(複数回答可)

選択肢	人数	(割合)
①保護観察所	100	62.1%
②保護司	140	87.0%
③更生保護施設	128	79.5%
④協力雇用主	61	37.9%
⑤社会を明るくする運動	70	43.5%
⑥更生保護女性会	27	16.8%
⑦BBS会	8	5.0%
⑧更生保護協会	14	8.7%
⑨この中に知っているものはない	3	1.9%

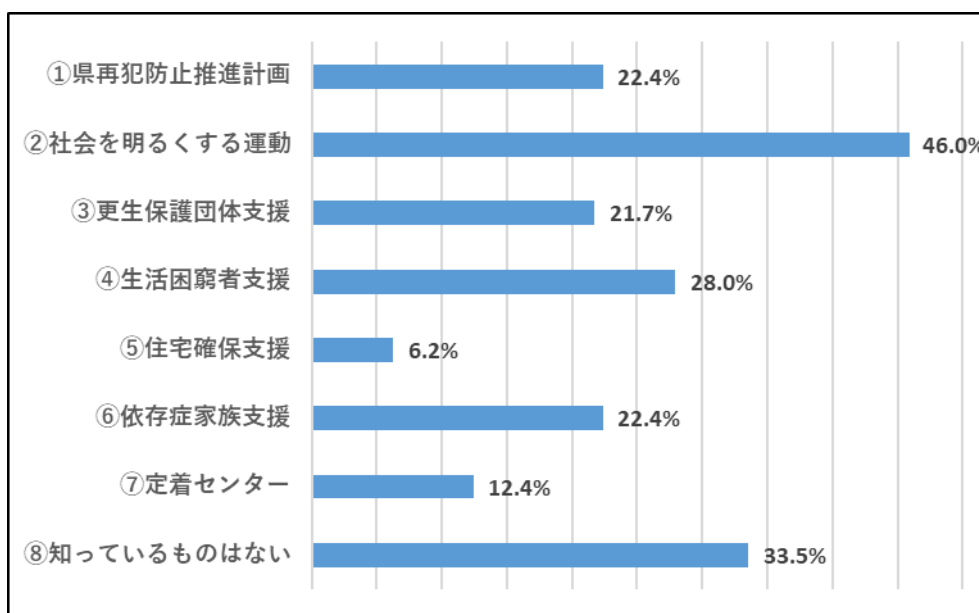


【調査結果】

再犯防止に関する機関について聞いたところ、「保護司」、「更生保護施設」、「保護観察所」の認知度は高く、一方で、「BBS会」、「更生保護協会」、「更生保護女性会」の認知度は低かった。

問 2 再犯防止に関する県の取組について、知っているものはありますか。(複数回答可)

選択肢	人数	(割合)
①岩手県再犯防止推進計画	36	22.4%
②社会を明るくする運動による広報、啓発	74	46.0%
③更生保護団体への支援を通じた民間協力者の活動の促進	35	21.7%
④一般就労への移行が困難な生活困窮者に対する生活訓練や社会訓練	45	28.0%
⑤居住支援協議会を通じた住宅確保要配慮者への円滑な入居促進	10	6.2%
⑥依存症者についての正しい知識と対処法を習得するための家族教室の開催	36	22.4%
⑦罪を犯した高齢者や障がいのある人に対する地域生活定着支援センターによる援助	20	12.4%
⑧この中に知っているものはない	54	33.5%



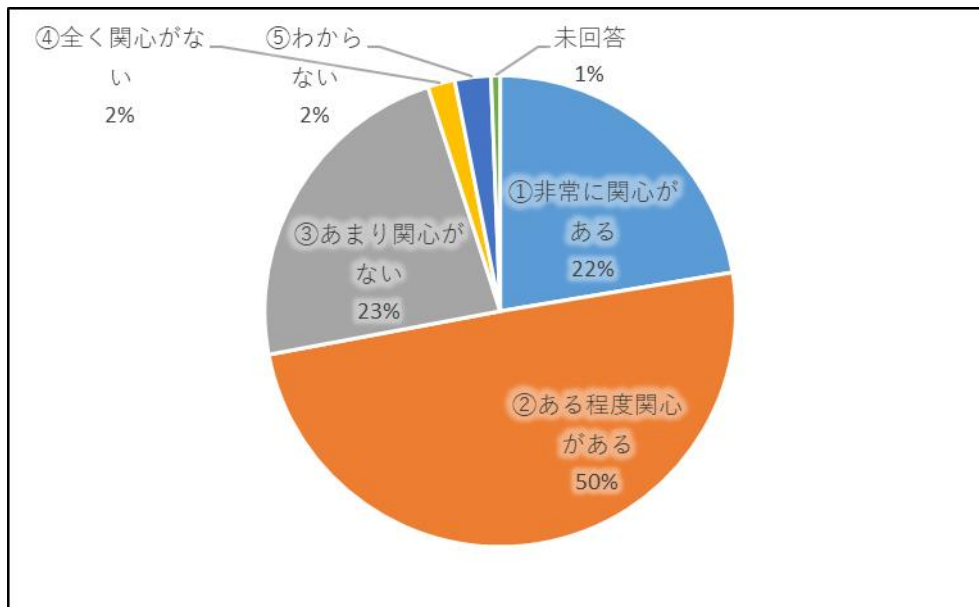
【調査結果】

県の取組について聞いたところ、「社会を明るくする運動による広報、啓発」の認知度が高い一方で、「知っているものはない」と答えた方が3割であった。

また、県の再犯防止推進計画の認知度も 22.4%と低いことが分かった。

問3 再犯防止に関する関心について、あなたにあてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①非常に関心がある	36	22.4%
②ある程度関心がある	80	49.7%
③あまり関心がない	37	23.0%
④全く関心がない	3	1.9%
⑤わからない	4	2.5%
未回答	1	0.6%
合計	161	100.0%

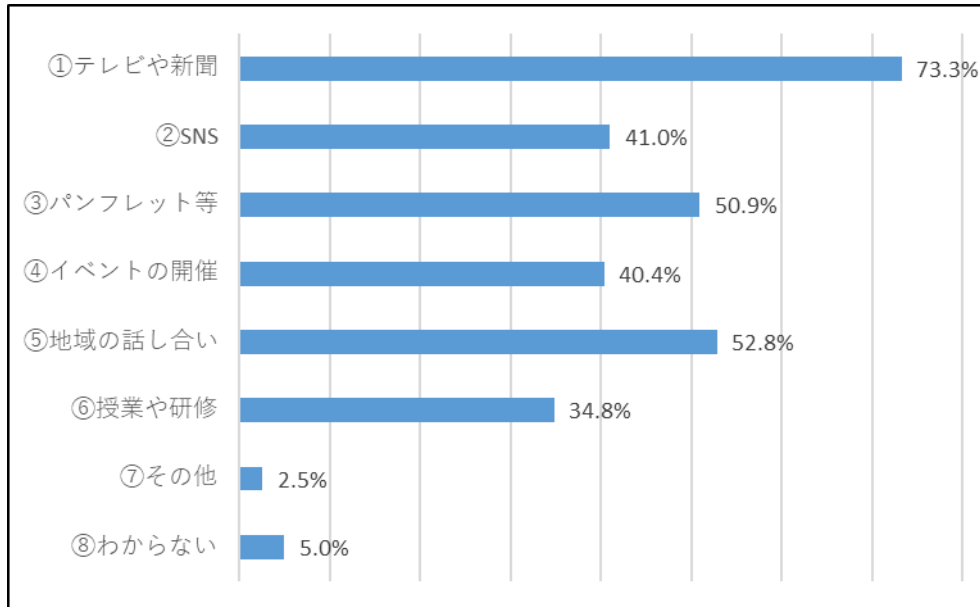


【調査結果】

再犯防止に関する関心について聞いたところ、「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した人は7割を超えた。

問 4 再犯防止に関して広く県民の理解や関心を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(複数回答可)

選択肢	人数	(割合)
①テレビや新聞などでの広報	118	73.3%
②ホームページやSNSでの情報発信	66	41.0%
③パンフレットやポスターでの広報	82	50.9%
④誰もが参加できるイベントの開催	65	40.4%
⑤地域や社会教育の場で話し合う機会を持つ	85	52.8%
⑥学校の授業や職場の研修で取り上げる	56	34.8%
⑦その他(自由記載)	4	2.5%
⑧わからない	8	5.0%



●その他(自由記載)

1	刑罰の重さを増やす
2	【連続テレビ小説】虎に翼の家庭裁判所関係場面の視聴は如何でしょうか？

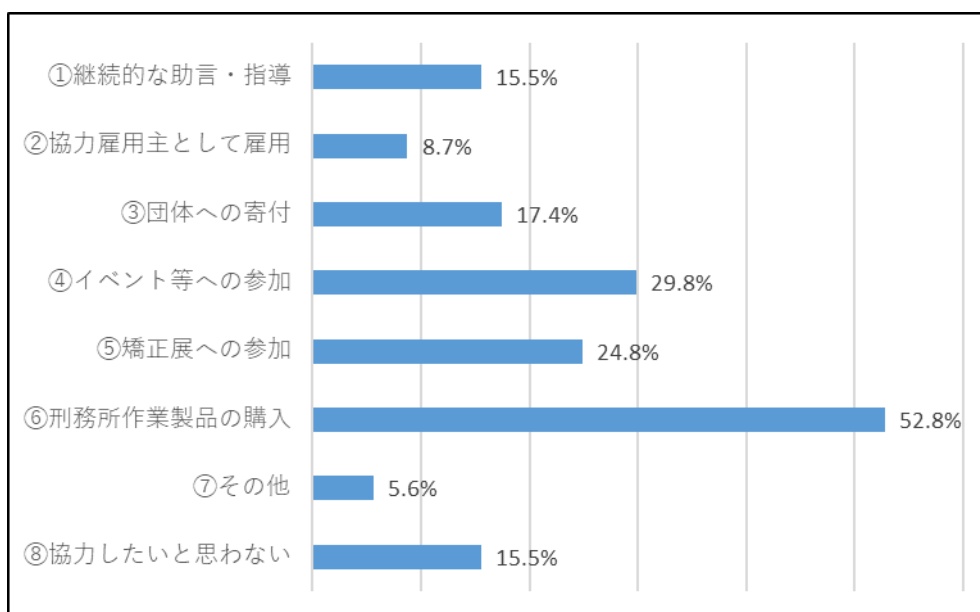
【調査結果】

再犯防止に関する広報媒体について聞いたところ、「テレビや新聞などでの広報」が7割、次いで「パンフレットやポスターでの広報」と「地域や社会教育の場で話し合う機会を持つ」が5割を超えた。

問 5 罪を犯した人の社会復帰のためには、自らの努力を促すだけでなく、周囲の理解や支援の輪を広げていく必要があります。あなたは、罪を犯した人の立ち直りにどのような協力をしたいと思いますか。①～⑦のうちあてはまるものを3つ以内で選んでください。

なお、どれにも当てはまらない場合は、⑧を選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①罪を犯した人に継続的に助言や指導をしたい	25	15.5%
②所属する企業や団体などで、協力雇用主として罪を犯した人を雇用したい	14	8.7%
③罪を犯した人の立ち直りを支援する団体にお金や品物を寄付したい	28	17.4%
④再犯防止に関するイベントやボランティアに参加したい	48	29.8%
⑤矯正展に参加したい	40	24.8%
⑥刑務所作業製品を購入したい	85	52.8%
⑦その他（自由記載）	9	5.6%
⑧協力したいと思わない	25	15.5%



※ 「矯正展」： 矯正施設（刑務所、少年院及び少年刑務所）において、これらが果たしている役割を紹介し、さらに、受刑者・少年自身が日々職業訓練や各種教育活動に努めていることについて、理解するために開催される催し

●その他（自由記載）

1	どのような行為が協力となるのか理解していない
2	本人の心や思いによりそってあげたい。しかし、これが一番むずかしい事ではないかと思う。
3	文章に書くには苦手
4	犯罪の種類、程度で判断する
5	正直、関心のある人はごく少数だと思います。ただ、これからは無関心ではられない世の中だと思いますが、どこから意識をもっていくか、はじめるか、わからない県民は多いと思います。再犯に関しての全てのことに関わると少し怖い感じもあり、遠ざけてしまう問題とも言えるのでは？
6	9月10日から保護司の委嘱を受けた
7	よくわからない。身近な人であてはまる人がいなかったので良くわかりません
8	協力したいと思わないというわけではないです。
9	色々な事情から犯罪を行うことは理解できるが、犯罪者の社会復帰のために一般人が支援する必要性はあまり理解できない。
10	身近に罪を犯した人がいないので実感がわかず考えたことがなかった。

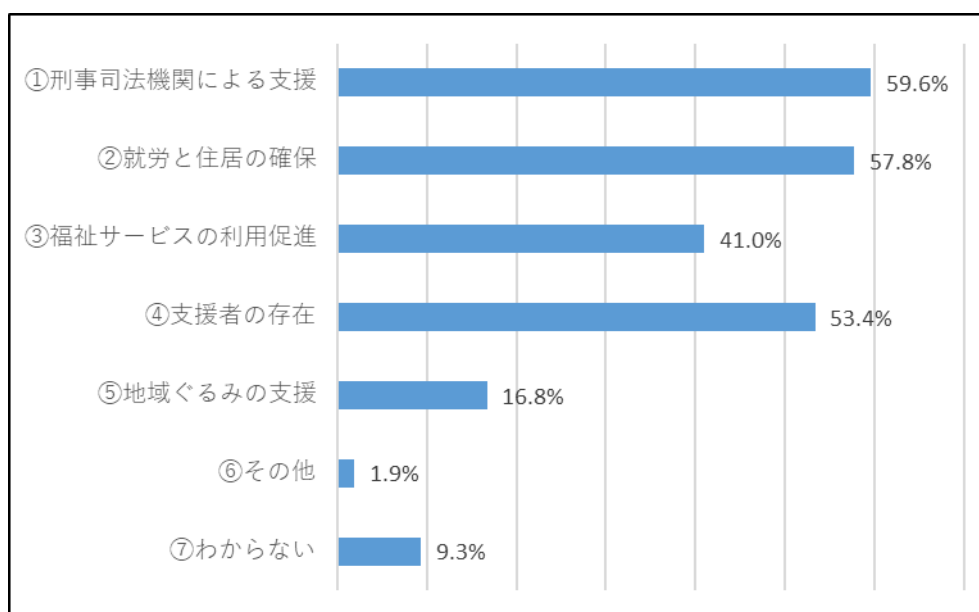
【調査結果】

罪を犯した人への協力について聞いたところ、「刑務所作業製品を購入したい」が5割と最も多く、次いで、「再犯防止に関するイベントやボランティアに参加したい」が3割近くに上った。一方で、「協力したいと思わない」と答えた人は15%であった。自由記載においては、協力への難しさが伺われる記載があった。

問6 刑務所を出た人のうち、住む場所がない人、仕事に就くことができない人、高齢者や障がいのある人等は、再犯率が高いと言われています。あなたは、罪を犯した人が社会復帰するために、どのような取組が必要だと思いますか。①～⑥のうちあてはまるものを3つ以内で選んでください。

なお、どれにも当てはまらない場合は、⑦を選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①刑事司法関係機関（刑務所、少年院、保護観察所等）による一人ひとりの問題性に応じた、きめ細やかな指導や支援を充実する	96	59.6%
②就労と住居を確保して安定した生活基盤を整える	93	57.8%
③罪を犯した高齢者や障がいのある人に対して、福祉サービスの利用を促進する	66	41.0%
④罪を犯した人が孤立しないよう相談できる関係性を築く支援者の存在	86	53.4%
⑤犯罪を地域の問題として捉え、地域ぐるみで再犯防止に向けた支援をする	27	16.8%
⑥その他（自由記載）	3	1.9%
⑦わからない	15	9.3%



●その他（自由記載）

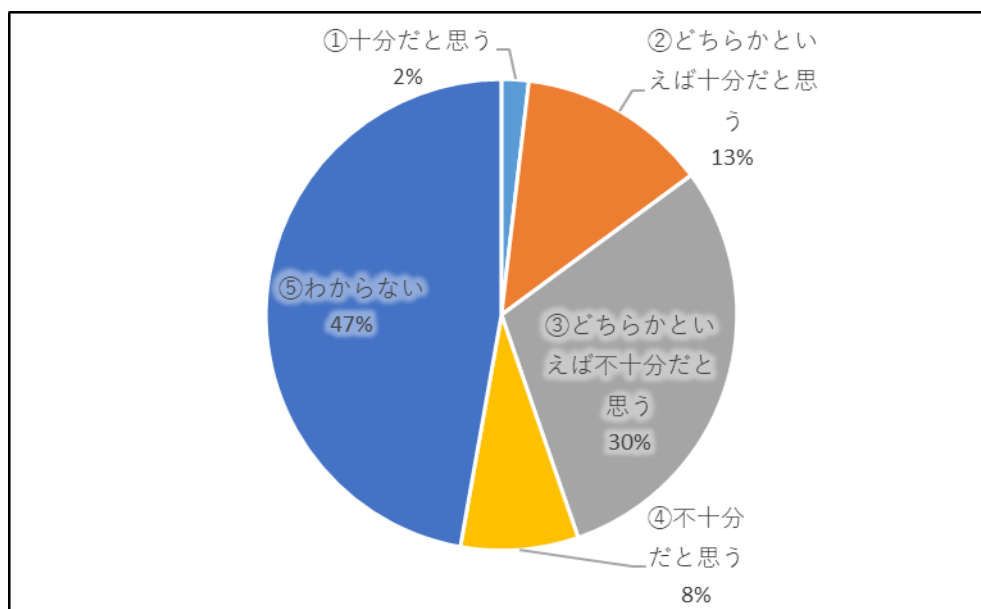
1	犯罪の種類、程度で判断する
2	すごく難しい問でした。社会に復帰するには、助けてあげないとなかなか戻れないことは分かっていますが・・・、いざ、自分が再犯防止のために何ができるかと聞かれたら、”無理です”と答えてしまうでしょう。基本的には’犯した罪は自分の罪’だと思っているので。
3	罪を犯した人が法的に刑を終えたからと言って、社会復帰するためには、被害を受けた人たちの「赦し」が必要と思う。
4	上記の通り、罪を犯した場合、一般人が支援する必要性があまり理解できない。罪を犯すということは自分で一般社会から道を外れることと同じだと思うが、刑務所を出た後、社会復帰できないことは自業自得と思う。

【調査結果】

罪を犯した人の社会復帰のために必要な取組について聞いたところ、「刑事司法関係機関（刑務所、少年院、保護観察所等）による一人ひとりの問題性に応じた、きめ細やかな指導や支援を充実する」と「就労と住居を確保して安定した生活基盤を整える」が6割近くに上った。自由記載では、罪を犯した人への支援の必要性を疑問視する記載があった。

問 7 現在の再犯防止に関する支援施策は十分行われていると思いますか。あてはまるもの1つを選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①十分だと思う	3	1.9%
②どちらかといえば十分だと思う	21	13.0%
③どちらかといえば不十分だと思う	48	29.8%
④不十分だと思う	13	8.1%
⑤わからない	76	47.2%
合計	161	100.0%



【調査結果】

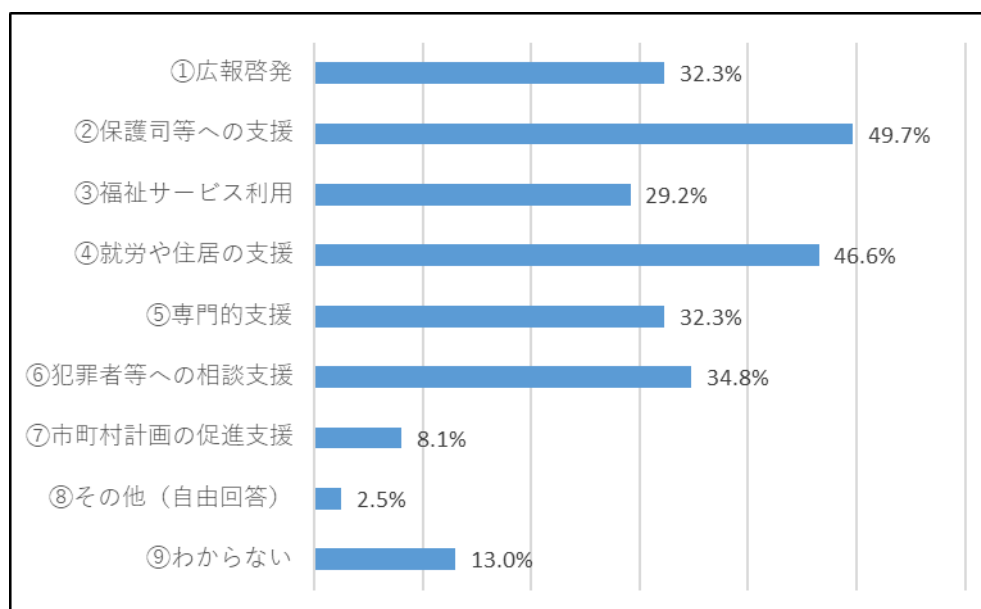
現在の再犯防止施策が十分に行われているか聞いたところ、「どちらかといえば不十分だと思う」「不十分だと思う」と回答した方が全体の4割近くに上った。一方で、5割近くが「わからない」との答えだった。

問8 県は、再犯防止に関してどのような施策に関して力を入れていくべきだと考えますか。

①～⑧のうちあてはまるものを3つ以内で選んでください。

なお、どれにも当てはまらない場合は、⑨を選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動	52	32.3%
②保護司や更生保護団体等民間協力者に対する支援	80	49.7%
③罪を犯した高齢者や障がいのある人への福祉サービス利用に向けた援助	47	29.2%
④犯罪をした者等の就職・就労継続や住居の確保等のための支援	75	46.6%
⑤性犯罪者や薬物事犯者に対しプログラムを実施する等の専門的支援	52	32.3%
⑥犯罪をした者等やその家族、支援者等からの相談への対応	56	34.8%
⑦市町村が定める再犯防止推進計画の促進への支援	13	8.1%
⑧その他（自由回答）	4	2.5%
⑨わからない	21	13.0%



●その他（自由記載）

1	障害のある人は一般常識が通用しないのでむずかしい。
2	相談窓口が常にある、TELでも対応してもらえるような場所。（もしあるとすれば、時間、曜日に関らず、いつでも相談できるようだと利用する方もよいのでは？
3	生活基盤が安定していないと前に進めないと思うので仕事などにつけるよう支援する
4	再犯防止の施策がどういうものがある、どのように実際に取り組まれているかを知る手立てが、一般の人はほとんどないと思います。また、保護司の方がどんなことをされているのかも、よく分からないため、保護司が殺害された事件がありました、「保護司って何？」と感じた人が沢山いると思います。保護司を主人公にしたドラマをTVで放映してほしいです。
5	犯罪者の社会復帰よりも被害者支援を行うべきではないか。

【調査結果】

県の再犯防止に関して力を入れていくべき施策について聞いたところ、「保護司や更生保護団体等民間協力者に対する支援」「犯罪をした者等の就職・就労継続や住居の確保等のための支援」が4割近くに上った。自由記載では、相談窓口の設置について記載いただいた方もいた。

問9 問8で回答した施策は、具体的にどのような内容を行うのがよいと考えますか。

※ 問8で選択肢①～⑦を選択した方のみ自由回答

1	狭義ではなく、犯罪を犯した人は様々な理由があって罪を犯したものと思うので、広く、再起できるメニューを本人からヒヤリング等をして適用したり、継続的に進めて改善策をトライしていくべきではないだろうか。
2	地域の祭りや行事の際に、理不尽な怒鳴り方をする大人がいます。地域に何らかの形で溶け込めていない人です。孤立しています。小中学校との連携で町にいるそんな大人との「付き合いかた」について親も知りたい 〇〇さんにはあらがわないようにと、言うしかない現状 その人が犯罪者というわけではありませんが地域の人たちで、ウワサ先行ではなく地域にとけこんでいく何か施策がないものではないでしょうか
3	再犯防止に関して当事者を地域が受け入れ、信じる心を持って接すべき。
4	再犯率の高さはその後のケアよりも、罰則の軽さが影響していると思っている。被害を受けた側は一生苦しむことになるのに加害側は早ければ数年で出所し、国や地域の手厚いサポートをもらって社会復帰するという仕組みは心情的に納得できない。更生するしないは個人の資質によるものが多く、周りのサポートを強化してもダメな人はダメだと思う。
5	職場、宿泊施設等の支援及びその地域の自治会とかイベント等への積極的な参加ができるように支援していければと思います。
6	県のみならず全国的に「再犯防止」に対する意識は低いように感じます。これを醸成するためには、国が主導して都道府県、保護司など民間団体と連携した広報啓発活動を地道に展開していくことが必要と考えます。また、「再犯防止」の一翼を担う保護司の報酬支給を含めた身分保障や更生保護団体に対する助成を手厚く行うことで、より一層啓発活動や就職支援等が展開できると思います。しかし、一方で、世論は犯罪をした者に対して依然として冷ややかで、いわゆる「偏見」が強いのも事実です。犯罪をした者の「偏見」をなくする活動も必要であると感じます。
7	人間であれば、犯罪を誰でも起こし得るものであり、ある程度の規制と容認が必要だと思います。私の周りにも犯罪者と言われる人がいます。彼らを容認する気持ちはないが、人生を否定するものでもありません。社会という規制は、作り上げられたものであるから、守り抜く理性と言われるものが需要ですが、チャップリンの言葉を借りるまでもなく、人類は戦争を国家とか家族との正義という理由で犯罪を正当化してきました。私の父の世代は、兵士として海外の戦場で兵士として戦い、生き延びてきました。その苦しみを語ることなく、残りの人生を全うして鬼籍の人となりました。私にとっては犯罪者ではなく、他の人に犯罪者となった人たちに、言葉ではなく、環境として存在出来なかった自分を申し訳ない気持ちがあります。犯罪は人間の中にあるのか、外にあるのか、私にはまだ疑問です。

8	<p>2 手厚い支援とフォロー</p> <p>4 収入が無いと不安から自暴自棄になってしまうと思うので、あっせんなどの支援は必要ではないかと思う。</p> <p>5 衝動を抑えることができるように、支援が必要だと思う。</p>
9	専門のグループホームがあると良いのでは
10	県としては、各市町村が活動しやすいように計画と指示を明確に出すことだと思います。県は、市町村と同じ内容の業務をしても効果は出ないと思います。分業分担で進めていくことが良いかと思います。ここには、必ず紐づけが必要とされるかと思います。
11	再犯しない為の環境づくりや（偏見や差別の様なものが起こりづらい仕組みづくりに取り組んでほしい。安定した生活環境の支援
12	住むところと仕事を提供する
13	一般の方への啓蒙よりも、その人自身の就職や福祉、住居確保に力を入れてもらいたいです。
14	生活と心の安定の為、見離されない事を重点に就職の世話と不平・不満の解消を行う。
15	関心を持つ人が参加できるよう、更生保護に関する研修や講習の参加資格をもっと広げる。更正を目指す人や、その家族が地域から孤立しないよう住居や仕事の支援などのフォロー。
16	個人的というよりも、企業、団体等での雇用支援が必要だと思います。働けば賃金ももらうことが出来、住居の確保も出来ると思うので。
17	何か罪を犯す人は家庭環境に問題がある可能性があるため、家族などと一緒に更生するように見守る必要があると思う。
18	日々の時間単位で日記を付けて送信する。行動内容の確認で一日の振り返り反省、良い点、気にかけてますよ、がんばって下さい等の日記に見られている、報告出来るのが楽しみ変わるシステム（淋しさもまぎれたり？
19	幼少期からの教育活動。何故犯罪が起きるのか。何故犯罪を起こしてはならないのか。被害を受けた人の気持ち。犯罪を犯した人の理由と受けなければならない罰。罪を犯しても立ち直って懸命に生活している人の講話。罪を犯した人を支えている人の講話等、様々な角度から年齢に応じて日常的に取り組むことが必要だと思います。
20	犯罪の内容によりますが、孤独にならないようにすることが最も重要だと思うので、とにかく色々な人と話が出来ると環境を作れば良いと思います。
21	保護司が被害にあう事件が後を絶たないため、複雑で更正の困難さが伺える。
22	高齢化、過疎化により近隣にコミュニケーションが益々少なくなっている状況で、更生のための積極的な受け入れを期待するのはむずかしくなっていると思う。行政レベルでの一層の地域的取り組みが必要と思う。

23	問8の回答の選択肢5をみて感じたこと。性犯罪者は繰り返す傾向があるので、これ以上の被害者が出ないように効果的な矯正方法があればよいのにと強く感じる。
24	誰も”あやまち”を犯すことはあります。でも、それを100%受け身として相談にのったり、面会したりすることは（相手にもよりますが）時には、キケンをとまなう行為だと思います。軽々しく”ボランティア的”な事ではないと思うので、相談員になる人、したい人は、しっかりと勉強してからでないともりなことではないでしょうか・・・。
25	とりあえず地域含めみんなに理解してもらおう。 こういう制度があるよって知ってもらうこと。 地域の広報やテレビ情報番組などでの理解など。
26	保護司等の協力者にはリスクも承知で頑張っているのです、対価を払う。仕事や住まいがなければ、又犯罪を犯して戻ってしまうので国からの支援が必要。それに基づいて協力して頂ける先を見つける。しっかり更生する為にも国での専門的な支援も考えた方がいい。
27	保護司などは無報酬のボランティアとのこと。ボランティア精神は実に素晴らしいことだが、それに甘えるべきではない。それなりの報酬を出すべきであり、行政の支援が必要だ。
28	再犯防止という言葉は知っていても 中身をほとんど考えたことがありませんでした。 でも社会の力で防止することができるなら、もちろんするべきだと思います。 税金を使うことになりますので、社会の理解も必要だと思います。
29	地域で誰が保護司なのか告知する 地域全体で見守る活動の実施 農業分野への取り組み
30	気軽に相談できるようアンケートをとったり、現状把握をするなど見守ることが必要と 考えます
31	保護司も現在、なりて不足の現状なので、待遇改善やサポート体制の充実を更に図る。
32	犯罪を犯した方は、周囲に知られたくないと思います。したがって特定の援助や支援の方にだけに知らせてほしいものです。知らせる場合は本人の承諾を得ることです。
33	例えば選択肢1で、【連続テレビ小説】虎に翼の家庭裁判所関係場面の視聴は如何でしょうか？
34	自分が1人で生きるための意識が前向きになるためのカウンセリングのような時間を専門の方に対応してもらおう
35	薬物犯罪は特に累犯性が高いと言われているので、出所後はしっかりと予防と策をとる必要がある。家族対策も万全を期すようにしたい。

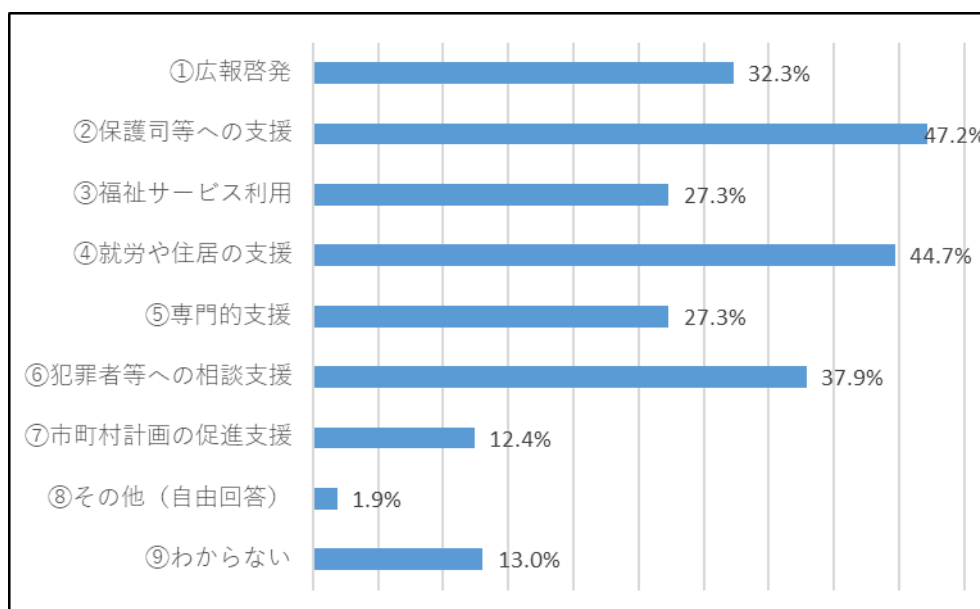
36	あまり広報啓発のポスターを見た事がないので、広報月間等を決めて、広く県民に周知する必要があると思う。
37	再犯性の高い性犯罪、薬物犯罪については中毒性や趣向など本人の意識のキャパシティを超えるところを外部が支えていくしかないので先ずは一人にしないことが重要でないか。そのためにも保護司や支援者、協力者が継続的に関われるように環境面、資金面も支援することが必要である。また貧困などの原因で再犯する場合も想像されるため、就労等の支援や受け入れ先への支援も必要である。孤独と貧困を防ぐことが重要でないか。
38	罪を犯した人の受け入れは、一般人にはなかなかハードルが高いように思われる。それはまた罪を犯し、自分が関係者になる恐れがあるからであるが、その恐れを払拭できれば、受け入れは進むと思う。 県や市町村において特別な非常勤職員として雇用するような制度でも設けて、住民の目から「しっかりまじめに働いている」ことが見て取れれば、民間での受け入れも進むのではないだろうか。
39	TV、ラジオ等での再犯防止に関して県民に理解と協力をうながす事も必要と考えます。
40	再犯防止には、犯罪者の心身を正す専門的な指導・支援と並行して、生活が成り立つように住居と仕事の場の確保が必要と考えます。
41	よく分かりません。ポスターだったり、広報誌でしょうか。学校でも時間を作って子どもたちに話してほしいと思います。
42	安定した生活環境、安定した収入等（特別な資格なしでもできる仕事）、過度な噂話などの環境の確保
43	犯罪者には、社会生活への適応が最も重要なので、ボランティア活動に期限をもうけて積極的に参加させることによって自助努力、社会貢献を助長させることが必要。
44	5. 性犯罪や薬物犯罪は、一般の県民では知識や理解が乏しいことから、専門家の支援が必要ではないか。 6. 犯罪者や家族は不安や悩みなど具体的な事は相談先が限られる為、困り事が多くなり精神面でも苦しむと思う。犯罪者も支援者もいつでも相談できる機関が必要と思う。電話のほか、メールやLINE等も活用して、気軽に相談できる場があれば支えになるのではないか。
45	就業するまでの支援は必須だと考えているが、就業してからの支援も必要ではないかと考えている。企業に就職し、定着するまでの時間で離職してしまったり、環境に馴染めずに再犯を起こす事が考えられるので保護司以外の相談者（キャリアコンサルタントやメンター等）が支援する仕組みがあっても良いと思う。
46	自分にできる事はないと思うのでよくわからない
47	経済的、住居の支援など生活の支援をして 仕事をしてもらう。 社会の一員として役に立っているという心の豊かさを感じてほしい。
48	再発防止に向け、個別に即応した支援が必要と思う。

49	刑務官の講演会の開催 薬物違反の実態
50	2についてです。保護司や協力者にどのような一報酬というのでしょうか—あるのか分かりませんが、さらなる充実をと思います。
51	当事者がどのように思っているのか、それに寄り添うのが良いと思います
52	犯罪するに至った原因の解決をする仕組みの手助けや作成の補助
53	罪を犯した人、及び家族との定期的な面談
54	私は、当市での保護司さん1名しか存じ上げませんが。どのような活動をしているのかは、テレビドラマで知るくらいですので、最身近にその活動を理解するためにも、、一般市民も参加できるイベント等を増やした方が良いと思います。

問 10 市町村は、再犯防止に関してどのような施策に関して力を入れていくべきだと考えますか。①～⑧のうちあてはまるものを3つ以内で選んでください。

なお、どれにも当てはまらない場合は、⑨を選んでください。

選択肢	人数	(割合)
①理解促進や関心を醸成するための広報啓発活動	52	32.3%
②保護司や更生保護団体等民間協力者に対する支援	76	47.2%
③罪を犯した高齢者や障がいのある人への福祉サービス利用に向けた援助	44	27.3%
④犯罪をした者等の就職・就労継続や住居の確保等のための支援	72	44.7%
⑤性犯罪者や薬物事犯者に対しプログラムを実施する等の専門的支援	44	27.3%
⑥犯罪をした者等やその家族、支援者等からの相談への対応	61	37.9%
⑦市町村が定める再犯防止推進計画の促進への支援	20	12.4%
⑧その他（自由回答）	3	1.9%
⑨わからない	21	13.0%



●その他（自由記載）

1	「再犯防止」は矯正業務であって都道府県と連携して国が主導して行うべきと考えます。
2	・保護司の安全確保 ・福祉サービス利用の無料化 ・住居賃の補助など
3	申し訳ありませんが、市町村で、どのような活動を行っているか、全くわかりません。また、活動していることを見聞きしたことも全くありませんでした。広報をしっかりと広めてから、その次の話になるのではないですか？
4	社会的自立に向けた、きめ細かな具体的支援（衣食住が安定するような働きかけや協力）が必要。また、支援者への補助金等も。

【調査結果】

市町村の再犯防止に関して力を入れていくべき施策について聞いたところ、「保護司や更生保護団体等民間協力者に対する支援」「犯罪をした者等の就職・就労継続や住居の確保等のための支援」が5割近くに上った。自由記載では、国が主導すべきとする御意見の他、直接的な支援が必要と記載いただいた方もいた。

問 11 問 10 で回答した施策は、具体的にどのような内容を行うのがよいと考えますか。

※ 問 10 で選択肢①～⑦を選択した方のみ自由回答

1	犯罪者も住居や就職も様々な地域を選択したいと思うので深く、それぞれの市町村の対応が必要と思うため。
2	性犯罪者についてですが、簡単には更生できないと聞きます。それが本当なのかどうかもわかりません。それが小学校の先生だったらどうでしょう今回のアンケートもそうですが「保護司さん」は知っていてもそれが具体的にどんな仕事を指すのかどのくらいの方が知っているのでしょうかそういう意味では、まず「知っていますか」というアンケートを実施するのも手立てなのだなあと思います
3	再犯率の高さはその後のケアよりも、罰則の軽さが影響していると思っている。被害をうけた側は一生苦しむことになるのに加害側は早ければ数年で出所し、国や地域の手厚いサポートをもらって社会復帰するという仕組みは心情的に納得できない。更生するしないは個人の資質によるものが多く、周りのサポートを強化してもダメな人はダメだと思う。
4	地域としての受け入れ態勢をととのえていければいいのではないかと思います。
5	犯罪が人間の中にあるとしても、犯罪者となるには社会という規制があるのなら、どの様にして再犯を防ぐ道があるのかももう一度、考えたい。
6	色々思いがあるのですが、この再犯防止を呼び掛ける前に、どうして再犯するのか等、心、精神面等を私たちは勉強が必要と思う。何かの機会を見つけ、講演会や、ボランティアとか、お手伝いしたい人などの、人材育成をして、理解者を増やすことが先かと思えます。この手の講演とか勉強会とか、何かと合体なり、単独なので協力者や理解者をふやすのが先かと思えます。
7	⑤～⑦を選びましたが難しかったです。でも私はこの3つかなと思いました。再び犯罪をおかした人は、十分に反省できるよう、指導して反省してほしいですね。いちばん家族がいることを忘れないでほしいです。自分の家族が悲しんでいると思えます。
8	問9と同様
9	少人数グループによるグループ討議プログラムの推進
10	県と民間のパイプ役になるかと思いますが、大変な業務だと思います。市としては、間接的な事よりも直接的なことも中にはあるかと思えます。当事者とよく合うことが大事かと思えます。犯罪再犯防止としては一人一人違うと思えます。生活環境の違いや、人間関係の違い等様々なことがあると思えます。誰しもが小さい頃は夢や希望があったはずですが。そのルールがどこかで狂ったのです。やはり一番良いのは焦ってはダメで、本人の話を聞くことが良いかと思えます。聞くにはきくには3つの要素があって聞くと聴くと訊くがあります。はき違えないよう一人の人として向き合っていく事が良いかと思えます。自分（我々）も人間で相手（犯罪を起こしてしまった人）も人間だと言うことです。殴られれば自分も痛い相手も痛いと同じです。自分だけが痛いと思ったら勘違いです。
11	地域特性（偏見や差別がおこりやすい地域、特に山村部など）に応じた、再犯防止策の提案や支援。

12	(・保護司との連携強化 ・各担当者との連携強化 ・福祉サービス利用の無料化) など、各市町村に居住する犯罪者の1人1人の状況に応じて援助できるように必要な人員、予算の確保に実のある施策にしてほしい。
13	当事者の会をつくり、お互い話し合える場をつくる
14	一般の方への啓蒙よりも、その人自身の就職や福祉、住居確保に力を入れてもらいたいです。
15	No.9 と同様
16	更正を目指す人や、その家族が地域から孤立しないよう住居や仕事の支援などのフォロー。また、取り組みについて地域の理解を促すための講習等を開く。社会教育などで、情報に触れる機会を増やす。
17	労働場所の確保とその企業、経営者支援が必要だと思います。まず仕事ができる場所が必要なのではないかと思います。
18	県よりも市はもっと犯罪を犯したものに対して更生させるために親身になって寄り添い、いつでも相談出来る環境を整える必要があると思う
19	行動の自覚、確認、本人もそうですし、機関システムを作り簡単な日記的一日振り返る習慣、孤独な方が案じられている、心配され見守られている嬉しさ、心の話し窓口が一つあるだけでも十分な抑止効果が上がりそうですが
20	幼少期からの啓発教育。どの人も大事にされる社会であれば犯罪が減り、また再犯防止に繋がると思います。
21	田舎の場合、同じ場所に住み続けるのは難しいと思うので、例えば県内の違う地域と連携して居場所を作りつつ、ある程度は行動の把握が出来るようにしておく。
22	”地域づくり”の活動をすすめるが、受け入れの条件づくりとしても必要になると思う。
23	男女どちらに対しても性犯罪は許せない。国とも連携してもっと罰則を強くしてほしいし、犯罪者の矯正に力をいれてほしい。
24	PR活動していますか・・・？岩手県なり各市町村での活動が未熟としか思えません。もっと早く、具体的に啓発活動するべきでした。(10代の若者の犯罪も多いので・・・)少し前、保護司さんが殺されたニュースがありました。正直、私は”そんなことあっていいの?!” ”ずっと親身になってくれた人を!どんな理由があれ、保護司(ベテランの人だったとか!)を殺すなんて”と、すごくショックを受けて、“こわい”の一言しかでませんでした。そんなこともあり・・・岩手県の活動はどうかかな・・・と考えるようになり、気になっていた部分でもありました。でも・・・、むずかしい問題だと思うのでまずは、県なり市なりでの活動を知ってもらうことが一番だと思います。広く知ってもらったら、”では一人一人出来る支援は?と考えるのかな”と思います。広報活動、大事だと思います。
25	市町村にも相談窓口があることを知ってもらう。住民の理解。とりあえず全くそういう窓口があることが知らない。
26	必要な協力して頂ける先には国から対価を払う。
27	問9にも記載したが、保護司などのボランティア精神は実に素晴らしいことだが、それに甘えるべきではない。それなりの報酬を出すべきであり、行政のしっかりとしたサポート、フォローが必要だ。

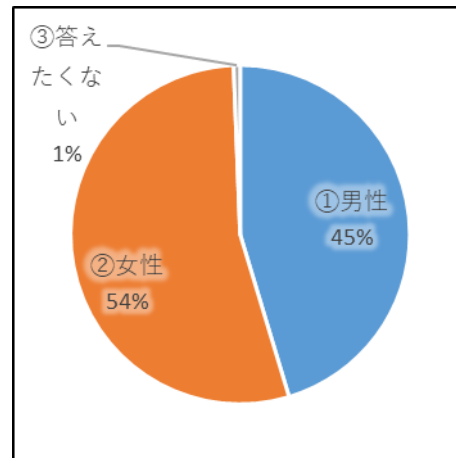
28	私のようにほとんど知らない、または知識がない人が多いと思います。理解を得るために、オープンな取り組みが必要だと思います。
29	県と情報を共有して再発しないよう生活状況の把握が必要と考えます
30	各市町村の首長さんが、先頭にたち理解をしめし、具体的に施策を実行する。地方公務員の方が、現役の段階から更生保護に携わることができるルール作りと、その協力体制の仕組みを確立する。
31	社会に戻って居場所があり、経済的に安定すれば再犯は少なくなると思います。それには雇用や生活保護、特に高齢者や障がい者等の弱者への支援・援助が必要と思います。
32	問9同様に例えば選択肢1で、【連続テレビ小説】虎に翼の家庭裁判所関係場面の視聴は如何でしょうか？
33	問10⑦の紫波町の策定委員ですが、いまだによくわからないのが本音です。
34	むずかしいことですが、理解を深めるために、一緒に花壇作りに汗を流すとか、ゴミ拾い活動をするなど、近づくことも必要では？
35	月1回発行される広報の力は大きいものがあることから、再犯防止について特集を組み、現状、支援する施設、相談窓口等を市民に周知することをしてほしい。
36	・若老にもかかわらず、就業場所安心して住める住環境の確保が必要 ・年に1回矯正展が行われているが、新聞広告には入って来るが、とっている人が少なくなっている今日ではTVやSNSで宣伝したり、回覧板等で多くの人を知るメディアを利用すべきと思う。
37	政策的支援や資金援助などは国や県が担当すべきである。市町村は地域内での理解情勢や再犯させないために孤立させない支援を担うべきである。それぞれが役割を明確にすることも重要である。
38	問9と同様に進めていく必要があると考えます。
39	県と情報共有して、犯罪者の心身を正す専門的な指導・支援を行うことと、生活が成り立つように住居と仕事の場の確保の両方の施策を進めることで再犯防止につながっていくと思います。
40	少しはずれますが、保護司さんの具体的な活動はどんなことをしていらっしゃるのか、保護司さんだけの集まりでどんな話をされているのか気になっていました。
41	県と市の役割分担がどうなっているのかが、わかりません。
42	一般人と同様に社会人教育を啓発すべきである。
43	3. 高齢者や障がいを持った方は、その方に必要な福祉サービスの有無もわからず、また自分自身が支援を受けるべきか判断もつかない可能性があるため、身近な窓口である市町村が関わる事が望ましいのではないかと。 4. 住居の確保と就労支援について、寄り添う身内等がない場合、住居と就労により自立を目指す必要があると考えるため、一定期間もしくは就労できるまで自治体や専門家、協力者が手を差し伸べる必要があると思う。
44	市町村によって「再犯防止推進計画」策定への考え方に温度差がある。策定をする予定のない市町村への何らかの働きかけが必要ではないのか。
45	問9の解答と同様。
46	イベントや講演会を開催周知に努める。 一部の人達だけ頑張っても限界がある
47	うかびません。わかりません。

48	むずかしい問題でどう接したらいいのか社会に出てもまっすぐ生きると更正されることの出来る人、されない人、他からまた誘惑されたり自分から昔の仲間にいたりすることもあると思います（生活のため）
49	利益優先の社会的風潮下、都会同様に事件に遭遇する地方である。健全な社会規範を低年齢から育成しているが、抜本的意識改革が日本人として求められている。
50	5を例にすれば、薬物の身体に及ぼす具体的な影響について
51	6についてです。被害者側への支援は当然のこと、充実をと思います。犯罪をした側の家族なども苦しいと思います。専門知識を持つ人をおいた相談の場を、と思います。
52	テレビ、ラジオ、広報等は多くの人目にふれやすいと思います。今以上の啓発活動を期待したいです。（問9も同様）
53	当事者に寄り添うと良いと思う
54	犯罪をするに至った原因の解決に向けた手助け
55	罪を犯した人を雇う会社の確保
56	恐らく再犯は、悪循環な身辺状況から生み出されている気がしますので、上記3点を推進していくと改善に繋がる気がします。
57	再犯をしないように基本的な生活ができるように見守る体制が必要だと思う。

Ⅲ 回答者の属性

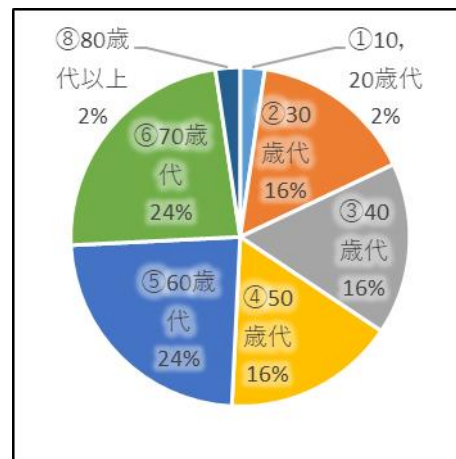
(1) 性別

選択肢	人数	(割合)
①男性	73	45.3%
②女性	87	54.0%
③答えたくない	1	0.6%
合計	161	100.0%



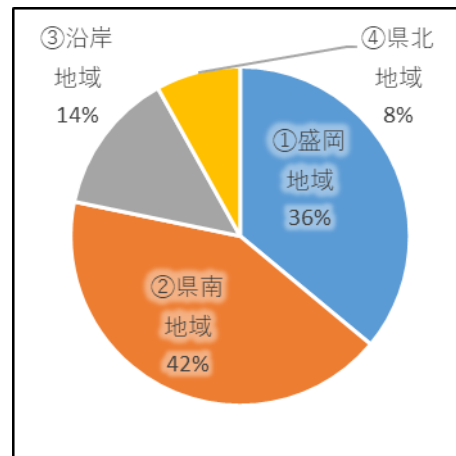
(2) 年齢層

選択肢	人数	(割合)
①10, 20歳代	3	1.9%
②30歳代	20	12.4%
③40歳代	21	13.0%
④50歳代	30	18.6%
⑤60歳代	54	33.5%
⑥70歳代	30	18.6%
⑧80歳代以上	3	1.9%
合計	161	100.0%



(3) お住まいの地域

選択肢	人数	(割合)
①盛岡地域	58	36.0%
②県南地域	68	42.2%
③沿岸地域	22	13.7%
④県北地域	13	8.1%
合計	161	100.0%



※ 地域の説明

① 盛岡地域

(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)

② 県南地域

(花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町)

③ 沿岸地域

(宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村)

④ 県北地域

(久慈市、二戸市、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町)